

第137回 病態生化学セミナー
新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター共催

日時:令和4年11月17日(木曜日) 17時00分～

場所:医学部実習棟 2階 P2 講義室

演題:腫瘍不均一性を克服するがん免疫療法の開発

演者:池田 裕明 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍医学分野 教授

近年、免疫チェックポイント阻害薬や CAR-T 細胞療法が承認薬となり、がんに対する新規治療法としてがん免疫療法が注目されている。しかしながら、腫瘍不均一性という腫瘍の性質ががん免疫療法の大きな障壁となっている。すなわち、腫瘍は元来様々な変異を持つ腫瘍細胞クローン群の集合体であるという腫瘍不均一性の性質を持っているが、抗原分子、抗原提示分子、抗腫瘍エフェクター標的分子等の欠失により、がん免疫療法から逃れる腫瘍細胞が存在する。我々は遺伝子改変 T 細胞療法を中心に新規がん免疫療法の開発を行なっているが、その中で腫瘍不均一性を克服するがん免疫療法の開発に取り組んでいる。第1には、T 細胞のミトコンドリア活性化を通じて、弱いがん抗原認識によっても十分にT細胞を活性化し、腫瘍認識T細胞のクローン拡大により、がん免疫療法の効果を向上させる新規化合物を発見した。第2に、抗原認識 T 細胞から産生されるインターフェロンガンマと協調して、抗原欠失腫瘍細胞にも効果的に細胞死を導きうるフェロトシス細胞死誘導剤の開発を行なっている。本セミナーではこれらの例を中心に、腫瘍不均一性を克服するがん免疫療法の開発ストラテジーを紹介する。

【池田裕明】

連絡先:

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp